

事案調書(戦略会議)

審議日 令和6年6月11日

案件名	2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO2027)屋外出展への参加について								
所管	環境経済	局区		部	水みどり環境課 公園課	課	担当者		内線

事案概要	
<p>・2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO2027)は、横浜市(旧上瀬谷通信施設、約100ha)において、2027年(令和9年)3月19日(金)～同年9月26日(日)の約6か月間開催が予定されている。</p> <p>・国際園芸家協会(AIPH)の承認を得て開催される国際的な博覧会であり、国内では1990年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会(大阪花の万博)」以来37年ぶりとなる。</p>	

審議事項	<p>〇国際園芸博覧会屋外出展への参加に係る意思決定について ⇒2027年国際園芸博覧会屋外出展について、「子育てするならさがみはら」をPRの軸にした、300㎡程度の庭園の出展を行う。</p>
審議結果 (政策課記入)	<p>〇原案のとおり承認する。 ただし、今回の承認は出展の意思決定であり、今後の進め方および事業内容(事業費含む)については、市長公室、財政局等と調整し、庁議に諮るものとする。</p>

事業効果 総合計画との関連	事業効果	本博覧会に参加することで、本市の取組や魅力を国内外に発信することができるため、1,000万人超の来場者に向けて効果的なシティプロモーションが可能となるもの。					
	効果測定指標	(定量面)観光客消費額や広告換算額 (定性面)PR実施時の来場者アンケート			施策番号		
		R6	R7	R8	R9		
	事業効果 年度目標	・出展申込み ・基本構想策定	・基本設計 ・実施設計	・施工	・実施		

事業スケジュール / 事業経費・財源 / 必要人工

〇事業スケジュール							
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実施内容	参加申込						
	コンセプト作成	プロポーザル	設計	施工	撤去移設		
	庁議	予算要求	予算要求	予算要求	開催 3月～9月		
		関係機関との調整					

○事業経費・財源

(千円)

項目	補助率/充当率	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
事業費(土木費)			10,000	63,000	22,000			
うち任意分								
特財								
国、県支出金								
地方債								
その他								
一般財源		0	10,000	63,000	22,000	0	0	0
うち任意分								
捻出する財源※2								
一般財源拠出見込額		0	10,000	63,000	22,000	0	0	0
元利償還金(交付税措置分を除く)								
捻出する財源概要								
税源涵養 (事業の税収効果)								

○必要人工(事業実施に当たり、新たな人員配置を求める場合のみ記入)

(人工)

項目		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
実施に係る人工	A	1	1	1	1	0		
局内で捻出する人工※	B							
必要な人工	C=A-B	1	1	1	1	0	0	0
局内で捻出する人工概要								

SDGs
関連ゴールに○

								
								○
								
			○		○			

日程等
調整事項

条例等の調整		なし	議会提案時期		報道への情報提供	なし
パブリックコメント	なし	時期		議会への情報提供	なし	

事前調整、検討経過等

調整部局名等	調整内容・結果
庁議に付議(R5.12~R6.2)	戦略会議で審議した結果、差し戻しとなった。
関係課長打ち合わせ会議(R6.2.8)	情報共有と、課題の整理・今後の進め方について協議を行った。 出席課:政策課、広域行政課、観光・シティプロモーション課、総合メディア戦略推進課、財政課、地域経済政策課、水みどり環境課、公園課
関係各課担当者会議(R6.2.16)	本博覧会への参加に係る考え方について、各課で検討を進めることとした。 出席課:政策課、広域行政課、観光・シティプロモーション課、総合メディア戦略推進課、財政課、地域経済政策課、水みどり環境課、公園課
関係各課担当者会議(R6.3.1)	子ども分野との連携を図り、「子育てするならさがみはら」のPRを軸とすることについて、課長級の会議に諮ることとした。 出席課:政策課、広域行政課、観光・シティプロモーション課、総合メディア戦略推進課、財政課、地域経済政策課、水みどり環境課、公園課
関係課長打ち合わせ会議(R6.3.6)	「子ども」分野との連携を図り、「子育てするならさがみはら」のPRを軸として展示内容等を検討することについて、了承された。 出席課:政策課、広域行政課、観光・シティプロモーション課、総合メディア戦略推進課、財政課、地域経済政策課、水みどり環境課、公園課
関係各課担当者会議(R6.3.14)	費用対効果及び展示内容の検討に当たっての役割分担を決め、展示内容等について検討を進めることとした。 出席課:政策課、広域行政課、観光・シティプロモーション課、財政課、こども・若者政策課、地域経済政策課、水みどり環境課、公園課
関係課長打ち合わせ会議(R6.4.26)	屋外出展の参加について、調整会議へ付議することとした。 出席課:政策課、広域行政課、シティプロモーション戦略課、観光政策課、財政課、こども・若者政策課、地域経済政策課、農政課、森林政策課、ゼロカーボン推進課、水みどり環境課、公園課
調整会議(R6.5.9)	原案のとおり上部会議に付議する。ただし、庁議の意見を踏まえ、資料を一部修正すること。
決定会議(R6.5.16)	原案を一部修正し、上部会議に付議する。

備考

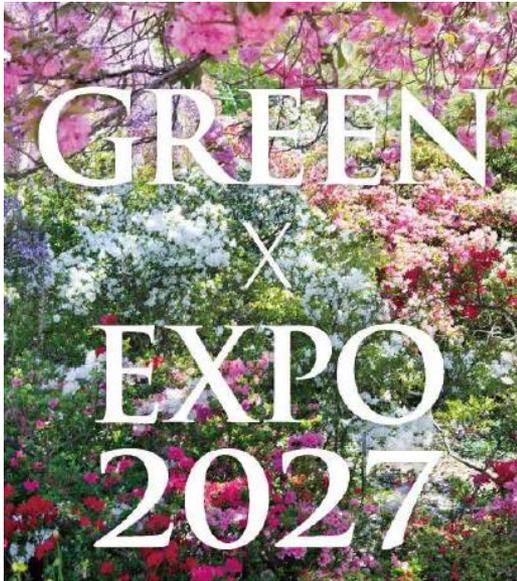
--

庁議におけるこれまでの議論

<p>戦略会議の 主な議論 (2/1) ※差し戻し</p>	<p>【出展の意思決定について】 ○(市長)現時点で参加を表明できない場合、デメリットがあるか。 →(環境経済局長)デメリットはない。 【出展内容及び概算事業費について】 ○(市長)園芸博覧会の重要性は理解できるが、1億円に見合ったメリットがあるのか疑問である。行財政構造改革も行っている中で、近隣市が参加するからというだけでは参加する理由にはならない。1億円に見合ったイメージがあるなら示してほしい。 ○(石井副市長)ただ花壇が設置されるだけに聞こえるが、ドーハで開催中の様子などがわかる資料はないのか。大阪の花の万博では、広大な敷地において、様々な企業が関わり、パビリオンも設置されるなどの展開がされていた。議論するからには、そういった資料が必要である。また、費用については、全国都市緑化フェアを根拠に面積や期間で1億円と算出しているが、根拠としては乏しく、きちんと精査しなくてはならない。 ○(奈良副市長)参加するイメージが湧かないといった意見があるので、どのように屋外出展するかイメージを示すとともに、全国都市緑化フェアを参考とせず、具体的な出展イメージを元に業者へ見積もりを依頼し、適切な算出根拠も示してほしい。まずは屋外出展の参加について、庁議に諮っていると思うが、屋内出展や催事についても議論となってしまうので、提案の内容をもう少し絞り込んだ方が良いのではないか。 【今回の戦略会議の結論】 ○(奈良副市長)園芸博覧会に参加に関して、事業課から参加しないという提案はできないと思う。参加するかしないかは、政策的な面もあるので、市長公室で判断できないのか。 →(市長公室長)参加するかの判断はあると思う。環境経済局と相談させてもらいたい。 ○(財政局長)参加に当たって九都県市で足並みを揃える必要があるのか、他の指定都市の参加の意向や広域行政の考え方も判断材料となるので、確認願いたい。 ○(市長)本日の意見を踏まえ、市長公室も関わって精査をお願いしたい。 <<差し戻しとする。>></p>
<p>調整会議の 主な議論 (5/9)</p>	<p>【出展の効果について】 (財政課長)出展の効果として、観光客の増加を狙っているのか、定住促進を狙っているのか。 →(地域経済政策課長)国内の来場者が多いと想定するので、まずは子育てするなら相模原を中心にPRする。また、相模大野からシャトルバスの発着が検討されていることもあり、PRコーナーを活用したイベントなども本市への来訪者を増やす側面効果もあると考えている。 →(水みどり環境課長)資料のポンチ絵にもあるリニア中央新幹線や大夙など、観光の面でも興味を持っていただくことを期待している。 ○(経営監理課長)シャトルバスの発着場所に市のブースを置くなど相談はできるのか。 ○(政策課長)南区になるのか環境経済局になるのかは別として、人の往来が多いという事で商店街に協力いただくなど、経済的な効果が出る仕掛けがあった方が良いと考える。 ○(人事・給与課長)商店街で割引を行うなど、地元が潤うような仕掛けができると良い。 【出展のテーマについて】 ○(総務法制課長)今回「子育て」がテーマに位置付けられているが、本市が打ち出している少子化対策、雇用促進対策、中山間地域対策もしくは、子育て、教育、まちづくりの中で「子育て」に特化した理由は何か。 →(政策課長)国際園芸博覧会の基本計画の例示にある「子ども」と、本市が力を入れる取組で連携が図れる分野として議論の結果であった。 ○(シティプロモーション戦略課長)子育てそのものを庭園でPRするというのは難しい部分もあると思う。開催地が近いという事もあり、例えば子ども自身が庭園づくりに参加するなど、相模原は子どもと一緒に取り組んでいるイメージの見せ方などの工夫も良いのではないか。また、一部園芸とは別のスペース(5%)を設けられるという事だが、例えば物販なども可能なのか。 →(水みどり環境課長)子育てに関わらず、市のPRを実施可能であるが、物販はできない。 →(地域経済政策課長)子育ての見せ方に関しては、関係課長打合せ会議でもこども・若者未来局と一緒に考えていくことで合意している。 ○(緑区役所区政策課長)資料にあるデジタルやVR・ARの観点について本市がロボット特区でもあるということも踏まえ、連携をするアイデアなどはないか。 →(水みどり環境課長)IoTの活用は園芸博全体の趣旨にもあるため今後検討していく。 ○(シティプロモーション戦略課長)出展の理由として、本市のシティプロモーションのターゲットが、東京都及び神奈川県近郊の人々となっており、まさに横浜開催という事で、プロモーションの対象としてターゲットにアクセスしやすいという観点は必要と考える。 →(水みどり環境課長)関東圏5千万人がターゲットという事もあるので、含めさせていただく。 【経費について】 ○(財政課長)川崎市と同程度の規模と考えるが予算規模はまだ出ていないということか。 →(水みどり環境課長)どの都市もまだ予算規模は出ていないが、協会は400㎡で1億2,000万円程度という試算をしており、本市の300㎡で概算9,500万円は妥当と考えている。 <<原案のとおり上部会議に付議する。 ただし、庁議の意見を踏まえ、資料を一部修正すること。>></p>

<p>決定会議の 主な議論 (5/16)</p>	<p>【2月1日実施の戦略会議で差戻になった経緯について】 ○(市長公室長)2月1日の戦略会議で差戻しになった経緯について説明を求める。 →(地域経済政策課長)具体的な庭園のイメージが湧かないことや、費用対効果の積算、概算事業費に対するメリット、本市の独自性、他自治体の検討状況、広域行政としての参画の考え方など、不明瞭な点が多いことが差戻しの要因であった。</p> <p>【意思決定の期限について】 ○(市長公室長)意思決定の期限について確認したい。 →(水みどり環境課長)申込の締め切りは本年度の7月末と2月末の2回設けられているが、次年度からの設計に要する予算等を踏まえると、7月末が期限と考えている。</p> <p>【出展のテーマについて】 ○(総務局長)設置した工作物は移設し再活用を想定しているとのことだが、出展の目的はいかに本市のブースに足を運んでいただくかであると考えている。移設を含めた活用を重視するのか、オリジナリティを重視するのか、戦略的な説明を求める。 →(公園課長)開催期間の半年間、雨や暑い夏の日差しなどの影響がある中で、津久井産材の工作物に傷みが生じる可能性も想定される。コンセプトを重視しつつ移設可能な工作物とできるのか、コンセプトを最優先して移設なしのその場限りの工作物とするのか見極めていきたい。</p> <p>○(財政局長)2月1日の戦略会議では、出展エリア(300㎡)における市のPRが全面に出ていると記憶しているが、今回の資料ではPRは全体の5%になっている。市のPRが主であることを前提に市長公室主導で検討することとなったと記憶している。検討した内容についてはもっと前面に出した方が良いと考える。また、市長公室が主導し、子育てするなら相模原をコンセプトとしたとのことだが、A1クラスの博覧会で、世界に発信していくテーマとしては、ロボットや宇宙などもあったのではないかと考える。 →(地域経済政策課長)出展エリア全体としては市長公室の提言も踏まえ、緑と子育てというテーマを遊び場などの手法で実施し、5%の部分は観光行事や施設など、(園芸に関わらず)市の様々なPRを半年間でできるスペースと考えている。また、国内外からの多くの来場者を呼び込むツールとして子育てを活用しようと考えている。</p> <p>○(財政局長)具体的な部分は今後検討というところだとは思いますが、戦略的に世界に向けて発信するという要素が少し弱いという印象を受けた。 →(水みどり環境課長)通常の博覧会などでは出展面積は20~40㎡程度である。また、今回の園芸博に関して、九都県市以外は25~100㎡程度である。本市は今回300㎡を想定しているので、スケールメリットを生かし、通常のテーマに加えてさらに子育てといったPRができると考えている。</p> <p>【経費について】 ○(総合政策・地方創生担当部長)概算事業費については、精査した上での限界の金額か。 ○(財政局長)概算事業費については、2月の戦略会議では内訳もなく、協会主催者から提供された試算を基に面積按分による金額であったものが、積上げに修正されているので、精査されたものと解釈している。 →(公園課長)公園課で過去に整備した実績値を参考に積み上げている。電気や水などを使用するための基盤整備に係る経費も積み上げている。</p> <p>○(市長公室長)面積は300㎡前提で、出展可否だけを検討しているのか。想定の大規模な経費が大きな懸案事項と捉えており、規模を下げた選択肢も検討の余地があるのでは。 →(水みどり環境課長)出展期間が長く、例えば花を植える際には、半年間咲いている花はないので植え替えなどを想定すると、概算金額は増大してしまう。</p> <p>○(財政局長)出展面積については、政令市等は同等の面積なのか。また、協会の試算を参考にすると、概算事業費も精査の余地があると考えている。 →(水みどり環境課)協会から、川崎市は400㎡で、さいたま市や相模原市は300㎡で打診を受けている。移設費用を精査するなどの余地はあると考えている。</p> <p>○(財政局長)出展に係る市の負担金は生じるのか。契約方法について確認したい。 →(水みどり環境課)負担金の支出はない。庭園を製作する費用を市が直接発注する。</p> <p>【推進体制について】 ○(総合政策・地方創生担当部長)推進体制について、環境経済局が主体で実施していくという考えで良いか。 ○(市長公室長)推進体制は審議事項ではないと考える。出展の可否のみを審議事項として良いと考える。 →(地域経済政策課長)承知した。資料を修正する。</p> <p><<原案を一部修正し、上部会議に付議する。>></p>
---------------------------------------	--

6月11日（火）戦略会議



2027年国際園芸博覧会 (GREEN × EXPO2027) 屋外出展への 参加について

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT **GOALS**

環境経済局 水みどり環境課・公園課

1. 概要

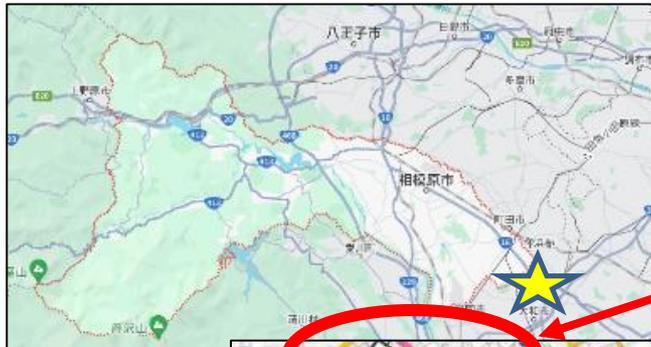
2027年国際園芸博覧会 (GREEN×EXPO2027)



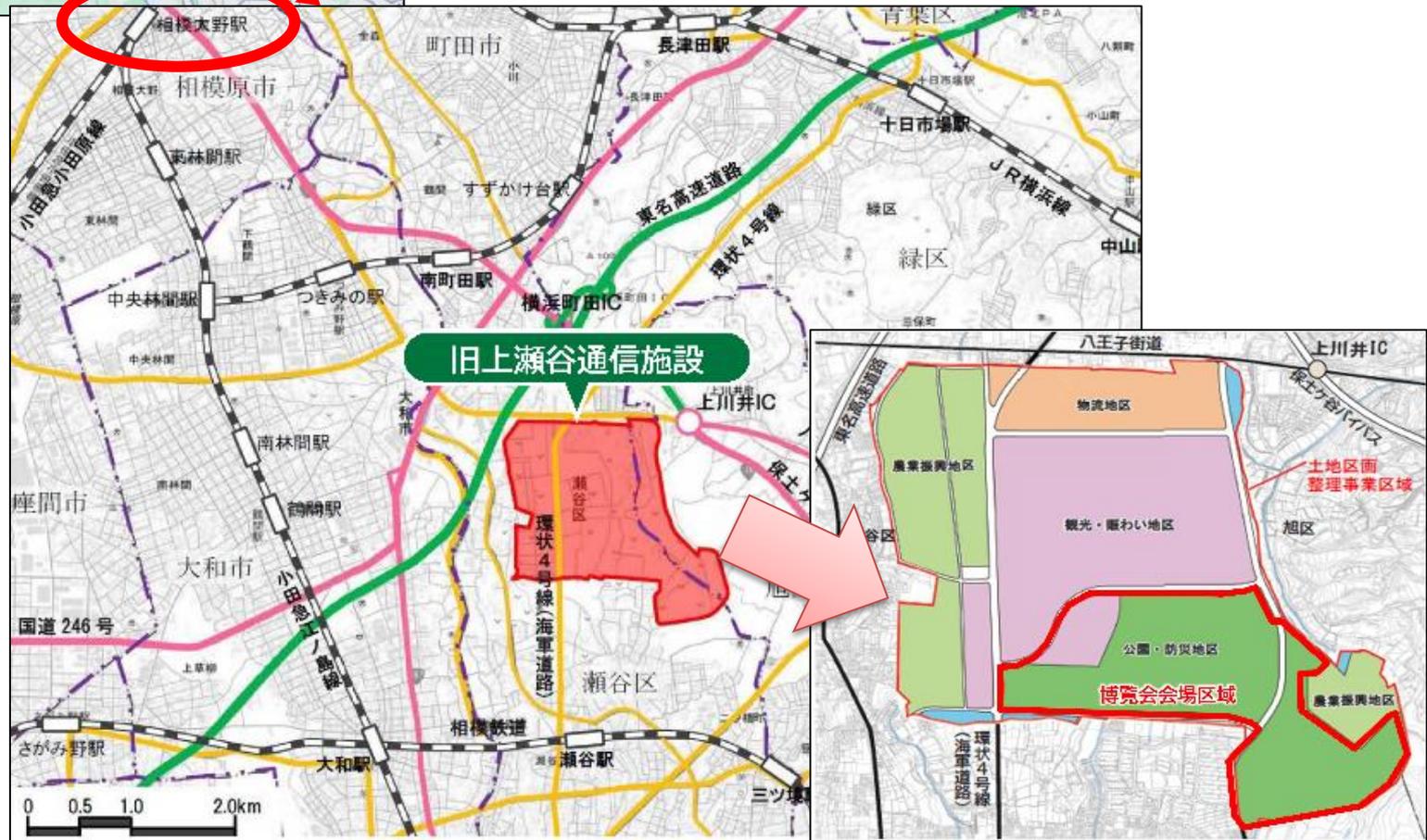
博覧会種別	A1(最上位)クラス
開催期間	2027年3月19日(金)～9月26日(日)
開催場所	横浜市・旧上瀬谷通信施設
参加者数	1500万人 (有料来場者数:1000万人以上)
開催主体	公益財団法人2027年国際園芸博覧会協会



開催場所の位置図



相模大野駅から会場まで約7km
車で20分程度
シャトルバスの運行が検討



＜参考＞2023年ドーハ国際園芸博覧会

博覧会種別	A1(最上位)クラス
開催期間	2023年10月2日～2024年3月28日
開催場所	カタール国ドーハ
テーマ	緑の砂漠、よりよい環境
来場者数	422万人(想定来場者数300万人)

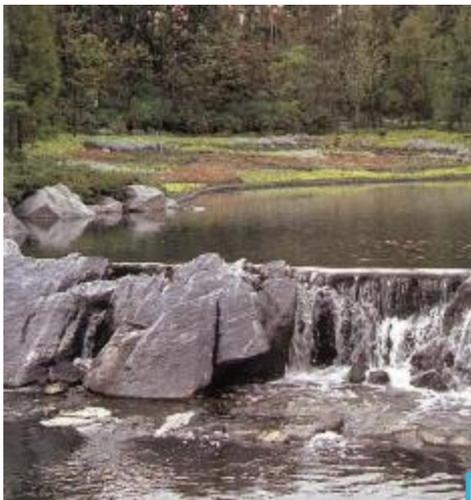


日本国出展は、屋内出展で「金賞」屋外出展で「銅賞」を受賞した。

<参考>大阪花博(花の万博 EXPO '90)



博覧会種別	A1(最上位)クラス
開催期間	1990年4月1日～9月30日
開催場所	大阪「鶴見緑地」
テーマ	自然と人間の共生
入場者数	約2313万人



左:日本庭園 中央:スイス出展 右:オランダ出展

2. 開催趣旨について

国際園芸博覧会の趣旨

国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、
地域・経済の創造や社会的な課題解決等への貢献

時代認識

地球環境の課題：地球温暖化、生物多様性の損失、自然災害、感染症、食料危機等

SDGsの達成に貢献し、その先の社会も見据えた日本モデルの提示
—実現に向けた取組の方向性—

Society5.0の展開

グリーンインフラの
実装

花き園芸文化の振興等を
通じた農業・農村の活性化

観光立国や
地方創生の推進

日本・横浜発の「グリーンシティ」の発信提示

都市生活が自然とともにある未来を市民・民間企業・行政が共に考え、行動を起こし、
アイデアを形にする取組を展開することにより、先導的な「グリーンシティ」を提示

花き園芸・造園・農の振興

花き園芸・造園・農
の発展に向けた
取組の加速化

日本の花き園芸
文化・造園文化の
再評価と発信

伝統的な
花き園芸・造園技術
の保全・継承

遺伝資源の保全

3. 参加メニューについて

参加区分	内容	協会からの提案	申込時期
	<p>① 屋外出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた造園技術やデザイン、地域資源のPR、環境などを展示する庭園や花壇出展 ・出展期間は「全期間」192日間 	<p>○300㎡程度の庭園の出展 ※九都県市に対しても、協会から出展の依頼あり。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一次公募受付締切 令和6年7月31日（水） ・二次公募受付締切 令和7年2月28日（金）
	<p>② 屋内出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラワーアレンジメント、生け花、盆栽などの作品の出品、植物、文化活動、地域資源などの出展 ・1区画20㎡～ ・全期間か短期間出展（9日間程度） 		<ul style="list-style-type: none"> ・一次公募受付締切 令和6年7月31日（水） ・二次公募受付締切 令和7年2月28日（金）
	<p>③ イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場内に設けられた催事場で自治体独自の催事を実施 ・自治体デーとして「市の日」などを設定してPRを行う ・物販やPRイベントが可能 ・費用は自己負担 	<ul style="list-style-type: none"> ○「相模原市の日」を設定し、催事スペースにおけるイベントの実施（式典、祭り、ショー等） ○市内農産物「さがみはらのめぐみ」の物販など 	<p>令和7年度を予定</p>

市の施策や魅力、個性を最も効果的にPRできる具体的な手法を市長公室を中心に庁内全体で検討していく。

4. 屋外出展について

出展形態:優れた造園技術やデザイン、園芸植物、資材等のPR、地域資源のPR、環境などへの取組等を展示する庭園や花壇出展

出展期間:全期間出展(192日)

区画規模:1区画あたり25㎡を基準面積として、複数区画の使用が可能



会場の全体計画図

都道府県、指定都市、
市町村の出展エリア



屋外出展のイメージ

各地域の自然や文化の多様性を全体として表現し、国内外の来訪者に各地域への興味関心を促し、誘客・交流につなげる出展

さがみはら2020～道・未知へ～



自転車ロードレース及びはやぶさ2をイメージした庭園

全国都市緑化ひろしまフェア本市出展花壇



全国都市緑化仙台フェア横浜市出展



全国都市緑化ひろしまフェアひろしま百景花壇(うみの景)

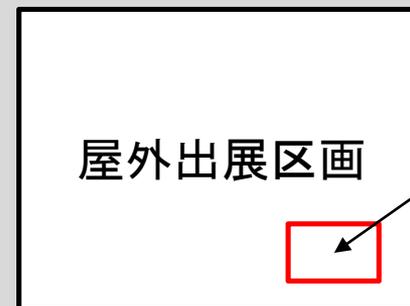


全国都市緑化仙台フェア秋田県造園協会他出展

屋外出展に伴うPR等の例

出展区域のうち、5%のエリアで本市の施策、観光や産業などのPR等の活動を行うことが可能。

※屋外出展面積が300㎡の場合は15㎡



PR・催事の範囲
(出展面積の5%)

広告宣伝・来場者サービス

◆看板、サイン、のぼり系

- ・出展区画内に看板やサイン、のぼりを設置



◆チラシ、名刺系

- ・出展者や出展作品を紹介するチラシを出展区画内に設置 (持ち帰り自由)



- ・庭園の中に制作者のチラシや名刺を設置 (持ち帰り自由)

◆来場者サービス系

- ・ガーデン解説、野点、サンプリング、ゲーム、イベント等



催事

◆ワークショップ

- ・出展企業、団体や作品に関するワークショップ

◆プレゼンテーション

- ・作品内容や材料、技術等に関する解説

◆デモンストレーション

- ・作品制作のデモンストレーション

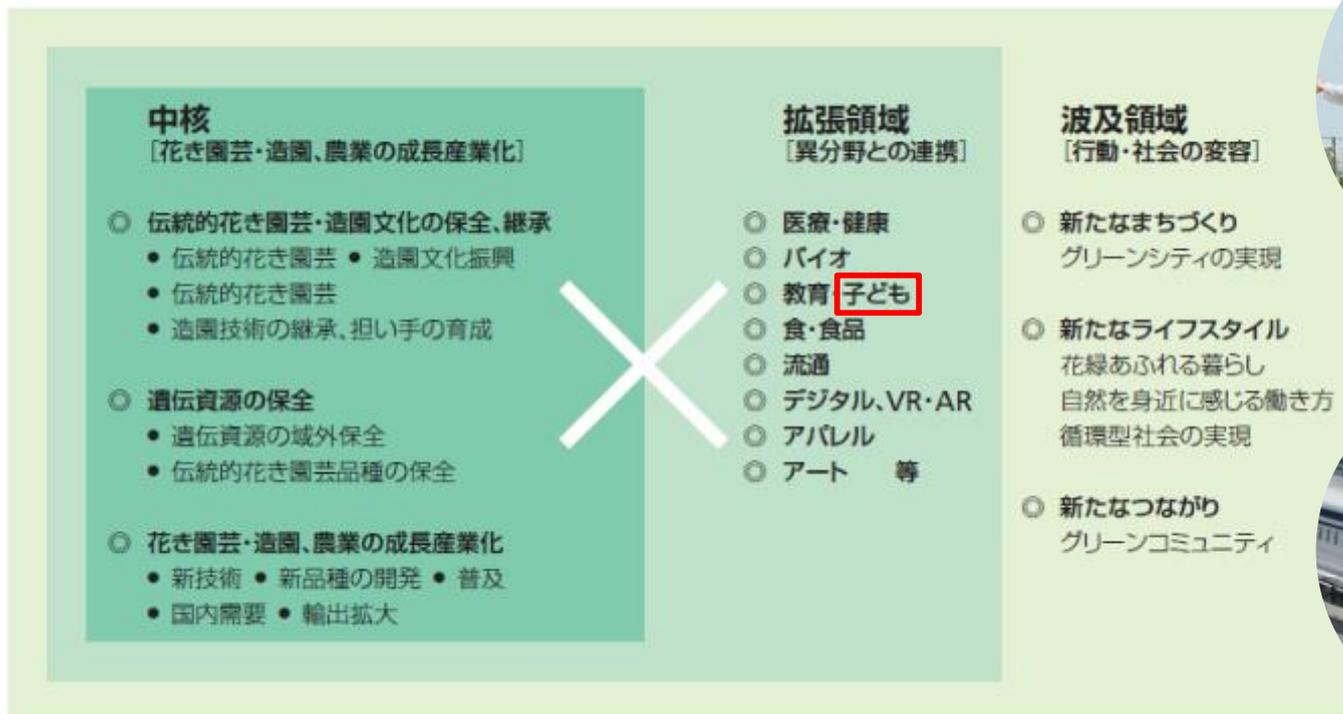


5. 本市における参加の考え方

【参加の考え方】

- 本市では、市総合計画において「少子化対策」「雇用促進対策」「中山間地域対策」を重点テーマとするとともに本市の個性を生かす分野として、「子育て」「教育」「まちづくり」に重点的に取り組んでいくこととしている。
- 本博覧会基本計画においても、「花き園芸・造園、農業の成長産業化」を中核としつつ、様々な異分野との連携により、「行動・社会の変容に波及」していくことをイメージしている。（以下のイメージ図を参照）
- こうしたことから、本市がSDGs未来都市であることやリニア中央新幹線の開通による今後のまちづくりへの期待など、本市の強みや魅力を生かしつつ、「次代につなぐ」といった視点から「子ども」分野との連携を図り、「本博覧会の開催意義をはじめ、「子育てするならさがみはら」のPRを軸として展示内容等を検討する。

事業構成で捉える領域イメージ ※「2027年国際園芸博覧会基本計画」から抜粋

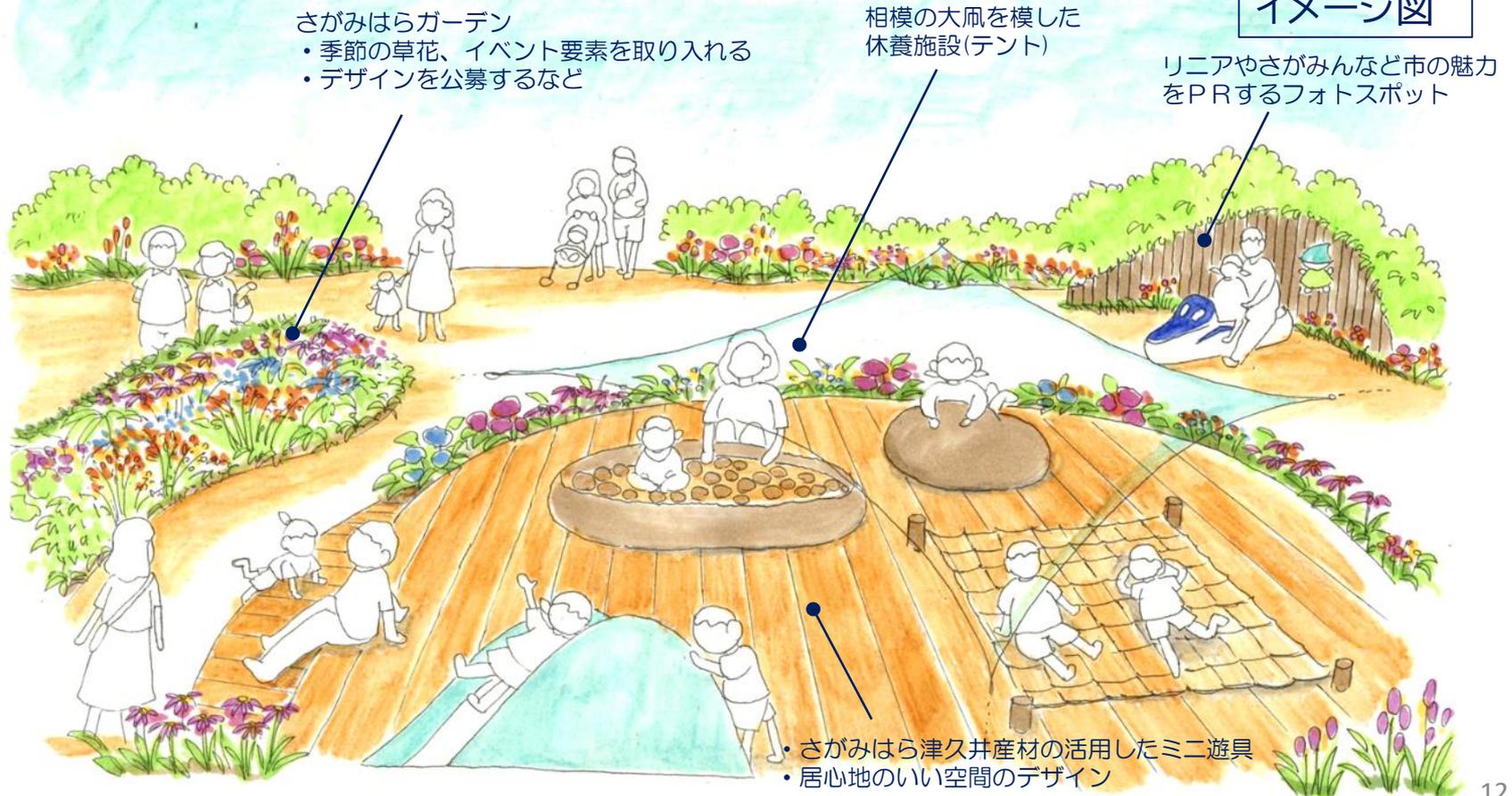


6. 本市の屋外出展について

「みどりとともに、子どもの夢を育むまち さがみはら」

コンセプト: 「子育てするならさがみはら」のPRを軸に据えた庭園づくりといった観点から、子ども(～未就学児)がわくわくする空間や相模原市の雄大な自然の恵みを感じてもらう庭園とする。なお、工作物等については、博覧会終了後、市内公園等に移設を行うなど利活用を検討していく。(想定面積:300㎡)

イメージ図



経費概算

	項目	金額(千円)
R7	基本設計・実施設計業務委託費	10,000
R8	施工費	
	①基盤整備	15,000
	②材料費(植物・樹木系・資材)・施工費	20,000
	③休憩施設(建物を想定)	12,000
	④工作物(さがみはら津久井産材を活用)	16,000
R9	維持管理費(植え替え・人員配置等運営費を含む)	12,000
	撤去・移設費	10,000
	合計	95,000

※③休憩施設④工作物については、博览会終了後、市内公園等に移設を行うなど利活用を検討していく。

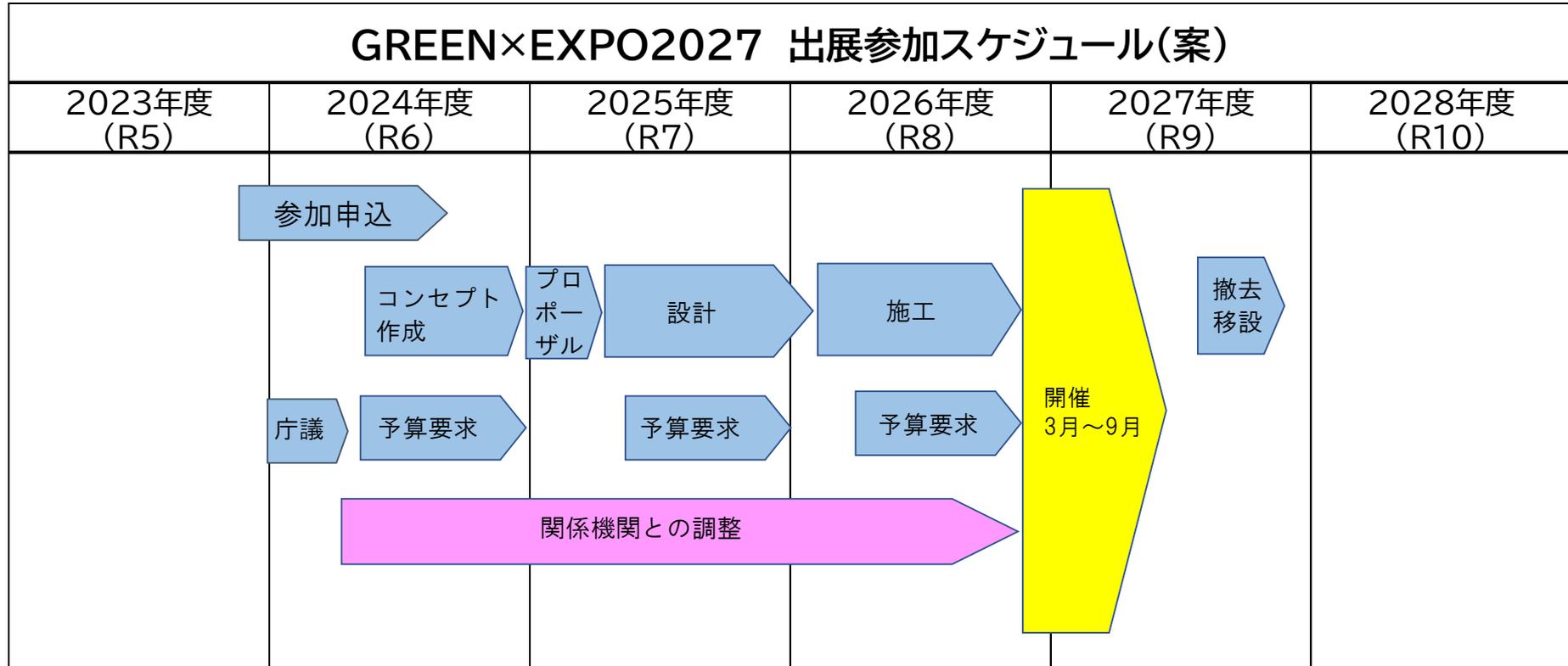
(参考)国際園芸博览会協会の試算(2023年11月連絡会議資料より)

出展面積	想定費用(千円)	備考
100m ²	30,250	協会試算
300m ²	88,796	協会試算より推計
400m ²	118,396	協会試算

出展することの効果

- ・SDGs未来都市である本市が、本博覧会へ参加することはSDGsの達成やカーボンニュートラルの実現の機運を高めるとともに、「都市と自然がベストミックスしたまち」であることをアピールできる。
- ・庭園の中に、子どもが楽しめる津久井産材を利用した遊具やリニア中央新幹線の模型などを展示し、端午の節句に子どもの誕生を祝う市の伝統的・文化的なシンボルである「相模の大凧」を展示することで相模原市が「子どもを大切にする」市であることがアピールできる。
- ・シビックプライド向上計画の対外的シティプロモーションのターゲット層は20歳代～30歳代の東京都民及び神奈川県民（本市を除く）であり、本博覧会に多くの来場が見込まれる人々であることから、効果的なシティプロモーションを行うことができ、同計画の目標である「認知度向上」及び「転入促進」にも効果がある。またPRブースの活用などにより、子育てや観光などの施策を発信することで、シビックプライドの向上が図られる。

スケジュール (案)



7. 経過

- ・ 第1回2027年国際園芸博覧会推進連絡会議（WEB会議）（R4.12.2）
- ・ 第2回2027年国際園芸博覧会推進連絡会議（WEB会議）（R5.5.17）
- ・ 国際園芸博覧会協会事務局との打ち合わせ（R5.6.19）
- ・ 第3回2027年国際園芸博覧会推進連絡会議（WEB会議）（R5.7.25）
- ・ 国際園芸博覧会協会事務総長表敬訪問（R5.9.6）
- ・ GREEN×EXPO2027 共創キックオフミーティング（R5.9.26）
- ・ 国際園芸博覧会協会事務局との打ち合わせ（R5.10.18）
- ・ 関係課長打合せ会議（R5.10.23）
- ・ 第4回2027年国際園芸博覧会推進連絡会議（WEB会議）（R5.11.21）
- ・ 令和5年度第1回 2027年国際園芸博覧会市町村説明会（R5.11.22）
- ・ 庁議（R5.12.8～ R6.2.1）※差戻し
- ・ 関係課長打ち合わせ会議（R6.2.8）
- ・ 担当者打ち合わせ会議（R6.2.16）（R6.3.1）
- ・ 関係課長打合せ会議（R6.3.6）
- ・ 担当者打ち合わせ会議（R6.3.14）
- ・ 令和5年度第2回2027年国際園芸博覧会市町村説明会（WEB会議）（R6.3.25）
- ・ 第5回2027年国際園芸博覧会推進連絡会議（WEB会議）（R6.4.24）
- ・ 関係課長打ち合わせ会議（R6.4.26）
- ・ 調整会議（R6.5.9）
- ・ 決定会議（R6.5.16）

＜参考＞浜名湖花博2024 ①



幼稚園の遠足等も含め子どもの来場者も確認できた

博覧会種別	2004年実施(Bクラス)の20周年記念事業
開催期間	2024年3月23日～6月16日
開催場所	浜名湖ガーデンパーク、はままつフラワーパーク
テーマ	人・自然・テクノロジーの架け橋 ～レイクハマナ デジタル田園都市～
入場者数	想定来場者数95万人



2027国際園芸博のPRブースも



平日にもかかわらず多くの来場者が見られた

<参考> 浜名湖花博2024 ②



フォトスポット



モザイカルチャーで動物やマスコットキャラクターなど、様々な造形物を表現していた。



構造物を含んだ庭園

令和6年6月11日

1 2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXP02027）屋外出展への参加について

【環境経済局 水みどり環境課、公園課】

(1) 主な意見等

- （市長）前回の戦略会議（令和6年2月1日開催）では、出展経費の内訳や出展内容の方向性が良くわからない中では出展可否を決められなかった。その後4か月の期間が空いたが、その間何を検討していたのか。
 - （環境経済局長）2月1日の戦略会議以降は、市長公室や関連部局も含め、他の自治体との差別化や本市の独自性等について議論してきた。
- （市長）2月1日の戦略会議以降の議論で見直した点は何か。
 - （環境経済局長）テーマとして「子育てするなら相模原」を軸にしていくこと、また、経費についても積上げにより精査を行った。なお、経費については製作内容の工夫により減額する余地はあると考えているが、現時点の見積りや実績を基にした積算である。
- （市長）経費については、少なければ良いというものでもないと思う。経費と製作した内容の水準が合致するのであれば、結果として相応しかったということになると考える。
- （市長）2027年国際園芸博覧会協会で検討中の、相模大野から会場までのシャトルバスの運行はいつ頃に決定する予定か。
 - （水みどり環境課長）確認したところでは、未定との回答であった。
- （市長）本市からシャトルバスが出ることになり、発着場所である相模大野で市のPRをすることになれば、良いインパクトがあると考えている。シャトルバス内での宣伝の工夫なども考えるのか。
 - （環境経済局長）市外の方々が相模大野に立ち寄る良いきっかけにもなるので、園芸博覧会に限らず本市のPRについても全庁的に働きかけたい。
- （市長）2027年国際園芸博覧会協会の検討事項とは思いますが情報は常に把握しておくこと。
 - （水みどり環境課長）承知した。
- （市長）「子育てするなら相模原」を軸に検討するとのことだが、具体的にはどのようなイメージか。
 - （環境経済局長）親子連れで立ち寄っていただき、遊べたり、休憩できたり、また子ども目を引くようなモザイクカルチャーの設置や、開催後に活用できる津久井産材を使用した東屋や遊具の設置などを考えている。他都市と差別化し本市の独自性を出していきたいと考えている。
- （石井副市長）「子育てするなら相模原」というキーワード自体は悪くないが、今回の園芸博覧会の開催趣旨から考えた時、ターゲット層になり得るのか。
 - （水みどり環境課長）2027年国際園芸博覧会協会としては特にターゲット層は限定しておらず、幅広く捉えている。参考に、令和6年3月から開催している「浜名湖花博2024」では、平日でも親子連れや保育園の遠足での来場が多いと感じた。
- （石井副市長）園芸博に来場される中心的な層は子育て世代より少し上の世代なのではと考えるが、これに対する検討などはいかがか。
 - （環境経済局長）子育て世代を軸にとは考えているが、同世代だけにとらわれず、幅広い年齢層を意識し取り組んでいく。
- （石井副市長）「相模原」という都市を来場された方々に印象付けるのが中心なのか、一息ついて休んでもらう東屋や遊具などの設置が中心なのか、今後の検討の中で整理してほしい。当然、本市のPRをしてほしいと考えるが、今一つ明確にテーマが整理されていないと感じる。

- (奈良副市長) 出展に際して、市外の方々だけでなく市内の方々にも見てもらいたいという考えか。
 - (環境経済局長) 開催場所が本市から近いため市民が行きやすいと考えていることに加え、ターゲット層である子育て世代で都内や横浜市、県内の方々に相模原市を知ってもらいたいと考えている。
- (奈良副市長) 本市全域の市民の方々の来場を考えた時に、開催地は必ずしも行きやすいとは言い難く、本市が主体的に工夫をしないと、来場していただくのは難しいと考えている。
- (奈良副市長) 出展に際しては、園芸等を団体の目的としている(公財)まち・みどり公社との関わりはないのか。
 - (環境経済局長) (公財)まち・みどり公社や、相模原造園協同組合とは連携してノウハウなど活用させていただきたいと考えている。
- (鈴木教育長) 他の出展との差別化が大事と考える。また、航空写真で本市の位置を示したり、会場までのシャトルバス内で本市のPR動画をモニターに流すなどの工夫も大事なのではないか。子育てをPRするのであれば、コンセプトと施設の配置と、子ども目線で楽しめるような工夫をしてほしい。
 - (環境経済局長) 様々な自治体が出展すると想定しており、差別化し、独自性を出していくことが大事と考えている。事業内容については、今後庁内で詰めていきたい。
- (財政局長) 経費について、製作する内容も複数案があり、東屋や休憩施設の規模等にも幅があったりすることから、個別に精査していくという点も補足させていただく。
- (総務局長) 「子育て」をテーマにする点は理解するが、出展で表現するのは難しいと感じる部分もある。今後の議論の中では子育てに特化することに捕らわれ過ぎず、様々な視点で議論していただきたい。また、園芸と緑区の自然との親和性等から、例えば緑区の民間施設と連携した取り組み、本市に足を運んでもらう仕掛けも合わせて考えていただきたい。
- (市長) 「子育てするなら相模原」と園芸博との結びつき等、今後の検討を見たいと考えるが、出展に関しては了としたい。出展内容についてはもう少し検討を重ねていただき、出展することだけを目的にしないようにしていただきたい。過去の本市における他の出展実績なども参考にしながら、出展内容については工夫をしていただきたい。本市は宇宙のイメージもあり、JAXAもある。子育てに加えてインパクトのあるものになるよう議論していただきたい。予算については、まず令和7年度的设计費のみ了としたい。
- (石井副市長) 今後、出展内容が固まっていく段階で、逐次庁議に諮る必要があるのか。
 - (大川副市長) 今回の庁議では未確定な点も多く、内容が詰まった段階で説明を求めたい。
 - (市長公室長) 庁議として実施するか等については市長公室で調整させていただく。
- (大川副市長) 出展することについては承認とする。今後の進め方については、市長公室と協議することとする。

(2) 結果

- 原案のとおり承認する。

ただし、今回の承認は出展の意思決定であり、今後の進め方および事業内容(事業費含む)については、市長公室、財政局等と調整し、庁議に諮るものとする。